学校番号	414

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	『詳説日本史スタンダードテスト』（山川出版社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・これまで「歴史総合」等の学習で培ってきた知識について問題演習を通して、より確実なものとして定着させましょう。
・様々な立場から歴史を考察し、歴史的資料を正確かつ客観的に読み取ることのできる力を養いましょう。
・常に現代的な視点を持ち、自らの言葉で課題を把握し、まとめ、伝えられる力を身につけましょう。また、その課題の解決にも努めましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
歴史総合の学習内容を定着させることができる。演習を通してより正確な知識の定着が見受けられる。資料についてその歴史的背景を正確かつ客観的に読み取ることができる。現在の日本の諸課題について、これまで学習してきた知識を十分に活用しながら調べ、まとめることができる。
【思考力、判断力、表現力等】
各主題にかかわる課題を総合的にまとめたうえで、自らの意見として発表することができる。プレゼンテーション等の場にあってはちがいだけを強調するのでなく、異なる他者の意見を受け入れ、さらなる発展、止揚させることができる。
【学びに向かう力、人間性等】
演習から考察を深めた証左として、日本の歴史から共通性と差異性を学び、多文化で多様に展開されている現在の世界について積極的にかかわり、望ましいありようを描き、他者と結びながら解決しようとする技能を育む。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	演習を通して、現代の歴史の変化に関わる諸事象について、広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を身に付けている。また異なる他者の意見を受け入れられるしなやかさも持ち合わせている。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して相互に依存しあって成立している世界の中で、たがいの文化を尊重することの大切さについて自覚できている。

上に示す観点に基づき、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。

4　学習の活動

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	日本文化のあけぼの	1　文化の始まり 2　農耕社会の成立 3　古墳文化の展開 4　飛鳥の朝廷	a. 問題演習を通じて、旧石器文化・縄文文化・弥生文化古墳文化の社会に与えた影響などに関する知識が定着している。資料を取りまとめる技能が身についている。 b. 生活や社会の変容について考察し、問いを表現できている。 c. 諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 レポートの内容 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 レポートの内容
	律令国家の形成	1　律令国家への道 2　平城京の時代 3　律令国家の文化 4　律令国家の変容	a.問題演習を通じて、律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどの知識が定着している。 b.藤原氏を中核とする政治抗争の進展と土地制度の変容をについて考察し、問いを表現できている。 c. 諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 レポートの内容 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 レポートの内容
	貴族政治の展開	1　摂関政治 2　国風文化 3　地方政治の展開と武士	a.　問題演習を通じて、藤原北家が権力を掌握していく過程などの知識が定着している。 b.　奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、問いを表現できている。 c.　諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 レポートの内容 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 レポートの内容
	院政と武士の躍進	1　院政の始まり 2　院政と平氏政権	a. 問題演習を通じて、貴族政治や土地制度の変容などを調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容などの知識が定着している。 b. 武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなど考察し、問いを表現できている。 c.　諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 レポートの内容 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 レポートの内容
二学期	武家政権の成立	1　鎌倉幕府の成立 2　武士の社会 3　モンゴル襲来と幕府の衰退 4　鎌倉文化 5　室町幕府の成立 6　幕府の衰退と庶民の台頭 7　室町文化 8　戦国大名の登場	a.　問題演習を通じて、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程や国内政治への影響などについての知識が定着している。 b.　幕府と朝廷の二元的支配構造の特色や戦国大名による富国強兵策に着目して領国統治の特色を諸資料から考察し、問いを表現できている。 c.　諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 レポートの内容 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 レポートの内容

二学期	近世の幕開け	1　織豊政権 2　桃山文化 3　幕藩体制の成立 4　幕藩社会の構造 5　幕政の安定 6　経済の発展 7　元禄文化	a. 問題演習を通じて、織豊政権との類似と相違などを、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移についての知識が定着している。 b. 織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について考察し、問いを表現できている。 c. 諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 レポートの内容 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 レポートの内容
	幕藩体制の動揺	1幕政の改革 2宝暦・天明期の文化 3幕府の衰退と近代への道 4化政文化	a. 問題演習を通じて、幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などについての知識が定着している。 b. 幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性、国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、問いを表現できている。 c. 諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 レポートの内容 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 レポートの内容
	近世から近代へ	1　開国と幕末の動乱 2　幕府の滅亡と新政府の発足	a. 問題演習を通じて、政治・経済の変化と思想への影響や幕藩体制の崩壊と新政権の成立などについての知識が定着している。 b. 日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化など考察し、問いを表現できている。 c. 諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 レポートの内容 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 レポートの内容
	近代国家の成立	1　明治維新と富国強兵 2　立憲国家の成立 3　日清・日露戦争と国際関係 4　第一次世界大戦と日本 5　ワシントン体制 6　近代産業の発展 7　近代文化の発達 8　市民生活の変容と大衆文化	a. 問題演習を通じて、明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮や第一次世界大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化についての知識が定着している。 b. 大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について考察し、問いを表現できている。 c. 諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 レポートの内容 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 レポートの内容

三学期	恐慌と第二次世界大戦	1　恐慌の時代 2　軍部の台頭 3　第二次世界大戦 4　占領と改革 5　冷戦の開始と講和	a. 問題演習を通じて、国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応、第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などについての知識が定着している。 b. 戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展、戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省について考察し、問いを表現できている。 c. 諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト	発問評価 レポートの内容 ペアワーク	授業態度 発問評価 レポートの内容
	高度成長の時代	1　55年体制 2　経済復興から高度経済成長へ 3　経済大国への道 4　冷戦の終結と日本社会の変容	a. 問題演習を通じて、保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯や、冷戦やグローバル化の進展の影響、戦後の日本経済の成長ついての知識が定着している。 b. 日ソ共同宣言をはじめとする外交事案がもたらした課題や、日本の経済復興や高度成長を国際関係様々な社会問題の発生について考察し、問いを表現できている。 c. 諸資料を活用し、課題を追究し解決する活動に主体的に取り組めている。	発問評価 小テスト	発問評価 レポートの内容 ペアワーク	授業態度 発問評価 レポートの内容

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度